第3種郵便物認可

精神障害者に退院支援

長期入院患者 社会復帰に不安

受賞を喜ぶ山田看護師（右）と岩城看護部長

名寄

【名寄】市立総合病院精神科の看護師4人がまとめた長期入院患者の退院支援に関する論文が、第44回日本看護学会優秀論文賞を受賞した。同病院からの受賞は初めて。研究発表者の看護師山田涼子さん(32)は「今回の調査により、他の患者と接する上でも多くのことを学ぶことができた」と話している。（下山竜良）

市立総合病院 看護師の4人 論文が最高賞に

小児看護や地域看護など10部門のうち、精神看護での受賞。論文テーマは「精神科長期入院患者の退院に関連する自立への不安―患者の地域生活を踏まえた退院支援の語り―」で、論文集に掲載された53論文の中で最高賞に輝いた。5月30日に同病院が発表した。

論文では、統合失調症が発症してから精神科に20年以上入院し、現在は退院して精神障害者の社会復帰施設で療生活をしている60代男性にインタビュー。退院前、地域生活への移行にどのような不安を抱えていたのかを聞いた。

療生活や金銭管理、人間関係など男性が抱えていた不安を九つのカテゴリーに分類。必要な退院支援として①地域での継続的な生活訓練の実施②退院後のイメージを具体的に語り合い、作業療法士など他職種と連携した自立の後押し③地域生活を念頭に置いた入院中の関わり―を提示した。

山田さんは「家族と疎遠になったり、退院後の行き先が見つからないなどで長期入院になるケースは多い。患者は想像以上に地域社会に出ることに不安がある」と説明。「長い目線で生活訓練を継続することが大切」と話した。

受賞論文は名寄市立大学看護学科の教員による指導も受けた。岩城美幸看護部長は「市立大の協力があってこその受賞。今後も研究を積み重ねたい」と語った。